

# ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 241

2014年

11～12月号

## 行 事 案 内

### 11月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 11月9日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
案 内 JBFを終えたばかりの定例探鳥会  
です。カモ類や冬鳥が戻り、手賀沼  
の水鳥もそろそろ各種が見られる  
頃で、昨年は早々とマガモ多数の群  
れやヒドリガモを観察したと報告  
されています。手賀沼の主のミサゴ  
も戻って、ハンティングの勇姿を見  
せてくれるかも知れません。久しぶ  
りの冬鳥との出会いを楽しみまし  
ょう。

解 散 正午頃  
担 当 桑森

### 12月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 12月14日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
案 内 本格的に冬が到来し、手賀沼がにぎ  
わう季節です。  
水面や陸の冬鳥を観察しましょう。  
空にはワシ・タカが期待できるでし  
ょう。  
人気のミコアイサ、タゲリに会いた  
いですね。

解 散 正午頃  
担 当 松田

### 11月、12月ピオトープ調査

期 日 11月6日(木) 雨天延期  
12月4日(木) 雨天延期  
集 合 手賀沼ピオトープ 午前9時30分  
案 内 11-12月のピオトープは冬鳥が見  
られるようになります。  
昨年11月はコガモ、マガモ、タヒ  
バリ等13種、12月はカシラダカ、  
トビ、ハイタカ等17種の野鳥を観  
察しました。蝶、蜻蛉、バッタ等の  
昆虫は少なくなります。紅葉し始  
める斜面林、近くに生えるカラタチ、  
ユズリハ、クス、ラクウショウ等の  
木の実、足元のオギ、ヨシ、ヒメガ  
マ、セイタカアワダチソウ等の花、  
花穂に秋、冬の気配を感じながら探  
鳥をしてみましよう。  
参加希望の方は下記までご連絡下  
さい。

解 散 午前11時30分  
担 当 鈴木静治  
Tel : 080-3121-4757

### 清里・軽井沢探鳥会(再掲)

期 日 11月23日(日)、24日(月・祝)  
集 合 我孫子駅北口ふれあい広場前  
午前8時  
案 内 例年2月の清里探鳥を今回は11月  
に開催します。

フクロウ、コミミズク、ベニマシコ、ハギマシコ、ニュウナイスズメなど多数の鳥が期待できます。

交通 マイクロバス  
定員 20名(先着順です)  
宿舎 ねむのきペンション  
費用 20,000円程度  
持物 観察用具、雨具、防寒具、弁当、飲物、洗面用具、タオル、パジャマ  
申込 野口隆也まで(旅行傷害保険加入のため、生年月日をご連絡ください)  
Tel: 04-7163-7898  
担当 小澤、野口(隆)

---

### 酒沼探鳥会

---

期日 12月23日(火・祝) 雨天中止  
集合 我孫子駅北口 午前8時  
案内 年末恒例の探鳥会です。酒沼周辺から霞ヶ浦へと探鳥します。ホオジロガモ、ヨシガモなどの水鳥、猛禽類、小鳥などいろいろな鳥たちを観察できることが期待されます。  
昨年は、猛禽類7種を含め、53種と多くの鳥が認められました。今年もさらに多くの鳥に出会えるかもしれません。また、酒沼特産の美味しい「シジミ」をお土産に如何ですか。

交通 自家用車分乗です。一人2,000円を運転者にお渡し下さい。申込の際、自家用車提供可能な方は、その旨をご連絡下さい。  
持物 観察用具、弁当・飲物(途中購入可)、雨具、防寒具  
申込 船津登まで  
Tel: 04-7191-2297  
担当 松本、船津

---

### 芋煮会 & 谷津田探鳥会

---

キャンプファイヤーを囲みながら飲み・食

べ・語らい、一年の締め括りを盛大に楽しみましょう!

今年も岡発戸・都部の谷津田で冬鳥を楽しみながら会場へ向かう探鳥組と、会場へ直接出向く直行組に分けて募集致します。申し込みの際は、どちらのコースに参加されるかを申し出て下さい。

今回、参加者の目標は70名超。ご夫婦で、またご家族揃って是非ご参加下さい。担当者が腕によりを掛けた美味しい料理で、皆様のお越しをお待ちして居ります。

期日 12月21日(日) 雨天中止  
集合

探鳥組: 成田線東我孫子駅前 午前9時  
直行組: 午前10時30分までに会場へ  
会場 五本松公園 ふれあいキャンプ場  
参加費 大人1,500円、小・中学生500円、幼児無料  
持参 汁椀、箸、おにぎりなど。  
酒類の持ち込みは大歓迎  
申込 金子雅幸まで  
Tel: 04-7133-6944

\* 定例探鳥会の折にも、申し込みを受け付けます

\* 締切 12月15日(月)

---

### 小見川・神之池・江戸崎探鳥会

---

期日 平成27年1月4日(日) 雨天中止  
集合 我孫子駅北口 午前8時  
案内 毎年恒例の新年探鳥会で、昨年からは正月三が日は避け、第一日曜日の開催としています。探鳥コースは例年通り、利根川堤防沿いの小見川の葎原～神之池(神栖市)～江戸崎(稲敷市稲波干拓地)の3箇所を回ります。猛禽類から水鳥まで多彩な冬鳥が楽しめ、昨年は<認めた鳥>55種を記録しています。特に、神之池ではミコアイサの群れに加え、久方ぶりにトモエガモ数羽が観察できました。江戸崎の名物オオヒシクイも健在でしょう。江戸崎は関東

では唯一のオオヒシクイの越冬地で是非とも見ておきたい冬の風物鳥(?)です。久しぶりの出会いや思わぬ出会いも求めて、2015年の探鳥を楽しくスタートしましょう。

- 交通 自家用車分乗です。便乗者は一人1,500円を運転者にお渡しください。申し込みの際、自家用車を提供可能な方はその旨ご連絡ください。
- 持物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途中購入可)
- 申込 桑森亮まで  
Tel/Fax: 04-7182-3149
- 担当 小玉、桑森

---

### 房総の港巡り探鳥会

---

- 期日 1月17日(土)~18日(日)
- 集合 我孫子駅北口 ふれあい広場前  
午前8時
- 案内 今年の1月、九十九里でアラナミキンクロやアメリカビロードキンクロが見られひと騒動となりましたが、ひょっとして冬の房総をじっくり観察すると、意外と多くの海鳥が見られるのでは...との期待を込めて、この企画が立ち上がりました。波崎漁港からスタートして鴨川辺りまで、ほとんどの港をチェックしながら1泊2日でゆっくりと巡ります。初めての事で何がみられるか判りませんが、あなたも参加して一緒に海鳥を探してみませんか?
- 交通員 マイクロバス
- 定員 20名(先着順)
- 宿泊 白子温泉、ホテル「カアナパリ」  
千葉県長生郡白子町中里 4519  
Tel: 0475-33-2045
- 費用 22,000円~23,000円程度(15人程度の場合)
- 持物 観察用具、雨具、防寒具、弁当、飲み物
- 申込 金子雅幸まで  
Tel: 04-7133-6944

\*旅行傷害保険に加入のため、生年月日をご連絡下さい。

\*申し込み開始日 10月30日より  
担当 松田、金子

---

### 第九回野鳥サロン

---

第九回野鳥サロンを、下記日程にて開催致します。

鳥にまつわる様々な話を特にテーマを定めず自由な雰囲気だと企画しています。

蒲田さんからは、鳥のはく製の製作記録についてのお話があります。

多くの皆様の参加をお待ちして居ります。

日時 11月15日(土) 10:00~11:45

場所 我孫子北近隣センター 並木本館  
第2・第3会議室

Tel: 04-7157-4517

(我孫子駅北口より徒歩7分)

会費 一人300円(茶菓代ほか)

担当 金子幸子、蒲田知子、木村稔

締切日 11月10日(月)

申込 木村稔まで

Tel: 080-6748-3673

---

### ジャパンバードフェスティバル (JBF2014) (部分再掲)

---

期日 11月1日(土)、2日(日)

会場 手賀沼親水広場(水の館周辺)、  
鳥博広場(鳥の博物館周辺)、ア  
ビスタ周辺、その他

案内 メイン会場は手賀沼親水広場です。光学器械関係は親水広場、学生・NPO団体は鳥博広場、講演・作品展は水の館、アビスタなど。

<当会のJBF2014参加内容>

仮称「会員が撮った鳥の面白写真と当会の活動風景」(鳥博広場のテント)

「野鳥の塗り絵とパタパタ工作」(鳥博広場のテント)

「庭に鳥を呼ぶ」(鳥博広場のテント)

湖畔バードウォッチング(噴水前の展

望デッキ)

船上バードウォッチング(観光船棧橋  
付近の受付)

<当会の前日会場設営と当日参加のお願い>

前日設営は10月31日(金)の13:30~  
鳥博広場の当会テントにご参集くだ  
さい。その後、各担当の出展場所へ移  
動します。

11月1日(土)9:30~16:00 各出展  
場所へ

11月2日(日)9:30~15:00 各出展  
場所へ

会員の皆様の積極的なご参加とご協力を  
お待ちしております。

### 手賀沼親子ふれあい探鳥会

期 日 11月30日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子駅北口ふれあい広場前  
午前9時(バス移動20名)または  
手賀の丘公園どんぐりの家前  
午前9時30分(10名)

案 内 一般市民を対象にして当会会員が  
山野と水辺の鳥を案内し、子供に探  
鳥の楽しみを伝える親子探鳥会で  
す。  
今回は「カラー写真入り野鳥チェッ  
クリスト」を進呈。  
更に野鳥ビンゴで特製野鳥カード  
や野鳥塗り絵セットをゲットでき  
ます。  
コースは手賀の丘公園~手賀沼~  
手賀の丘公園です。  
会員の皆様もお子さんやお孫さん  
を誘ってぜひご参加ください!

解 散 正午頃  
参加費 無料  
定 員 30名(小学生以下は保護者同伴)  
申 込 野口隆也まで

Tel : 04-7163-7898

担 当 間野、相良、船津、松下、野口(隆)

### 統一クリーンデイふれあい清掃

手賀沼ふれあい清掃と美手連統一クリーン  
デイに参加しましょう!

期 日 12月7日(日)

雨天の場合12月14日(日)に延期

集 合 手賀沼公園多目的広場 8時45分  
行事予定 8:45~9:00 受付

9:00~9:15 開会式

9:15~10:30 清掃

10:30~11:00 閉会式

参加記念品配布・ジャンケン大会  
清掃作業コース 「根戸新田Bコース」手賀  
沼公園~根戸新田(沼側歩道下)

担 当 金子(雅)、小澤

持 参 軍手、火バサミ(会で準備します)、  
汁椀・箸(豚汁が今回からふるまわ  
れます)

### 11月役員会案内

日 時 11月9日(日) 13:00~16:00

場 所 水の館 3階研修室

議 題

2015年度上期行事予定について  
会報242号掲載予定記事につい  
て

芋煮会と谷津田探鳥会について  
第10回「野鳥サロン」について  
報告事項

・JBF2014実施報告

・関係団体関連報告

その他(議題のある場合は野口  
隆也までご連絡ください)

## 行 事 報 告

### 8 月手賀沼探鳥会

調査日時 2014.8.10 8:00 ~ 11:00

曇り時々晴 強風 30

台風の影響で開催が危ぶまれたが、直前に雨がやみ、集合した9名で実施した。

ヒドリ橋では、ハヤブサがいつもの95鉄塔から隣の96へ飛び移りしばらくとどまるところが、初めて観察された。胸の白斑がくっきりしており、別個体では？という意見もあった。また、葦原に飛びこむヨシゴイもみられた。ヒドリ橋付近でヨシゴイが観察されるのはずいぶん久しぶりとの事。

その後、蓮田から染井入落、ヨシゴイ目当てに浅間橋まで足を伸ばしたが、風が強まったせいか、残念ながら鳥影はうすかった。

沼畔には萩や葛の花が咲き初め、早くも秋の訪れを感じさせた。

<認めた鳥> コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ヨシゴイ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、バン、オオバン、クロハラアジサシ、コゲラ、ハヤブサ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計26種

<探鳥班> 船津登、松田幸保、野口隆也、小澤淳宏、西嶋昭生、荒井みどり、桑森亮(担当) 小林寿美子、野口紀子 計9名

<カウント班> 木村稔、田中功、染谷迪夫

調査日時 2014.8.12 8:00 ~ 10:03

曇り 微風 南東 28

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	7	5	12
カルガモ	14	8	22
カイツブリ	1	0	1
カワウ	44	70	114
ダイサギ	2	3	5
コサギ	1	4	5
バン	1	0	1

オハシ	2	0	2
コサギ	2	0	2
合計	74	90	164

<ピオトープ班> 鈴木静治、金子雅幸、池田日出男、船津登

調査日時 2014.8.7 8:30 ~ 10:00

晴れ 強風 31

台風の影響で風強く、沼に白波立つ。沼は杭にとまるカワウ、飛ぶカルガモのみ見える。ピオトープ内は草に覆われ中にある鳥は見えない。高木の頂きで囀るホオジロ、飛ぶカワラヒワ位。水田ではアオサギ、カルガモ、スズメ、ツバメ等飛ぶ。斜面林上をトビ、カラスが風に乗って飛ぶ。観察した野鳥12種39羽。他に木の花実6種、野草の花9種が観察でき、蝶10種、蛾1種、蜻蛉4種、蜂5種、蝉4種、バッタ2種、蛙2種、トカゲ1種も観察出来ました。

<認めた鳥> カルガモ、カイツブリ、アオサギ、カワウ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、ヒヨドリ、セッカ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ 計12種

番外 カワラバト

### 9 月手賀沼探鳥会

調査日時 2014.9.14 8:00 ~ 11:05

晴れ 無風 26

秋の気配が足早に近づき歩いて汗が出ない絶好の探鳥日和となりました。3連休の中日にもかかわらず32名の参加がありました。北千葉導水第2 機場駐車場が9時まで開かないため、サマータイムの今月は従来の逆の順で回ることとした。まず、最初に行った浅間橋では期待したヨシゴイは多くの方が見られなかったものの、ゴイサギの成鳥、幼鳥がともに見られた。下沼のお立ち台ではツバメに混じってショウドウツバメが、また浅間橋で見逃したヨシゴイが見られたのは幸運でありました。第2 機場でカンムリカ

イツブリの幼鳥らしき鳥を見つけ、手賀沼でカンムリカイツブリが繁殖かと一時は色めきたったものの、その後証拠写真を鳥博で調べてもらったところ、単にカイツブリの幼鳥と分かりました。

なお、途中休憩で立ち寄った道の駅は連休、好天ということもあり、駐車場所を探すだけで大変苦労しました。

認めた鳥 コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ヨシゴイ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、オオバン、トビ、オオタカ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ショウドウツバメ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ 計 25 種 番外 カワラバト

探鳥班 野口隆也、森口良三、小川克子、渡邊公子、佐々木隆、荒井みどり、村瀬和則、間野吉幸、石井俊子、北原建郎、金子幸子、川越久枝、相良直己、船津登、野倉元雄、小玉文夫、松田幸保、小林博之、千葉洋、古出洋子、北崎正典、佐藤弘美、類地佑子、西嶋昭生、鈴木静治、桑森亮、六角昭男、玉井修一郎、藤川敏彦、田丸喜昭、猪爪敏夫

(担当) 小澤淳宏 計 32 名

<カウント班> 木村稔、田中功、染谷迪夫

調査日時 2014.9.14 8:20 ~ 10:42

曇り 微風 東 26

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	19	4	23
カルガモ	51	10	61
カイツブリ	5	1	6
カワウ	36	53	89
ゴイサギ	15	0	15
アオサギ	16	6	22
ダイサギ	14	9	23
チュウサギ	0	13	13
コサギ	1	4	5
オオバン	1	0	1
合計	160	100	260

<ピオトープ班> 猪爪敏夫、鈴木静治、間野吉幸、池田日出夫、蒲田知子

調査日時 2014.9.4 8:40 ~ 10:15

晴れ後曇り 無風 27 ~ 29

ピオトープは草に覆われ野鳥見えない。沼にもほとんど水鳥見えない。水田も稲刈り前

のため鳥は少ない。ピオトープ内の木の頂で囀るホオジロ、岸の桜の木で鳴くシジュウカラ、田と叢の間を行き来するスズメ、上空を飛ぶハシブトガラス、ダイサギ、遠く上空を飛ぶタカが見られました。観察した野鳥 8 種 62 羽。他に木の花実 4 種、野草の花 23 種が観察でき、蝶 8 種、蜻蛉 6 種、蜂 1 種、バッタ 3 種、甲虫 1 種、カメムシ 3 種、クモ 3 種、蛙 2 種、カナヘビ、カメ、イタチも観察出来ました。

<認めた鳥> カワウ、ダイサギ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ショウドウツバメ、ヒヨドリ、スズメ、ホオジロ 計 8 種

---

## 茨城県南部 シギチ探鳥会

8月31日

---

### ～だから鳥見は面白い～

金子雅幸

夏の恒例「茨城南部シギチ探鳥会」、2 年前は猛暑の中 2 ~ 300 羽のアマサギの乱舞が見られ、ツバメチドリ、ヒバリシギ、エリマキシギと充実の 35 種。昨年は小雨の中、オオハシシギ、オグロシギ、ウズラシギ、オジロトウネンなど 42 種。そして今年も 26 名もの参加者を得、異常気象で長雨が続き夏とは思えぬ涼しい中、期待を胸に探鳥会がスタートした。

田園を走れど走れど、色づく稲穂の中に僅かなアマサギ、チュウサギなどが佇む程度で、パラパラと鳥影はあるがこの時期ならではの群れは見られない。雨で稲刈りが遅れているのか、シギチが採餌する場所がほとんど無い。幹事さんが何とか鳥を見つけようと車をドロコにして畦道に突入するが、目にするのは稲穂の上を飛び回るツバメのみ。それでも生板地区でアオアシシギ、タカブシギ、ホシゴイが見られ、次に期待と浮島へ向かった。昼食中もオオセッカ、セッカ、コジュリンの声を楽しみ、遠くに数羽のミサゴも確認し、いよいよ本番と本新地区へ。ここでもハスの刈り取りが済んだ田は少なかったが、それでも 52 の瞳で懸命に探すとコチドリ、シロチドリの他にキアシシギ、ソリハシシギ、そしてヒバリシギも確認出来た。よ～く探せばいい

るものなのだ。最終探鳥地の西ノ洲は、雨水が溜まり深すぎるのかキアシシギしか見られない。水の中をカイツブリの幼鳥が、1羽寂しそうに泳ぎ回っていた。近く of 杭の上にはミサゴが2羽、その威風堂々の姿を見せて呉れカメラの絶好な被写体となっていた。シギチの代わりに、カワラヒワの群れが何度も飛び交って気分を和ませて呉れた。その時、目の良い松本さんが「何かツバメみたいなのが飛んでいる…」の声。一瞬の間であったが、みんなの前を飛び去って行った、あれは何だったのか？私にはツバメチドリの様にも見えたが。そのすぐ後にも、クロハラアジサシが飛び去ったのを、何人かが確認された。意外な処で予想外の鳥が見られるのも、鳥見の醍醐味。

鳥合わせをしてみると、何と41種を確認出来た。少ない様に思っていたが大勢いると結構見つかるもので、これこそが探鳥会の一番良い処。渡りの時期や種類は年によって微妙に変わるが、だからこそ今年はどんな鳥に出会えるか…期待しながら参加している。結果はあくまでその時の運次第と楽しんでいる。

そして来年の探鳥会では、果たしてどんな鳥と出会える事か？

### 【幹事報告】

例年、盛夏炎天下での“気力勝負”のシギチ探鳥会ですが、今年は異常気象で曇天の探鳥会でした。

総勢26名は定刻8時に、霧雨の中、出発。殆ど昨年と同じルート、5か所10地点の探鳥会です。

第一地点<福木>で、予想外にもアマサギの出迎え、幸先良いと内心安堵した。第二地点<生板>では、ホシゴイ、キアシシギと続いて意気があがった。

少しでも多くの出会いをと、下見ルートから外れ、欲張って悪路にも構わず第三地点<古河林>で横道にそれたのがまずく、稲刈り中のためUターンを余儀なくされたり、車輪が埋まってしまったり、悪戦苦闘にもかかわらず、鳥影には恵まれず、第四・五の佐原新田などでは、農作業車両への邪魔を避けて、ショートカットした。結局「アマサギ群」には出会えませんでした。

続く、<八千石>、<六角>も休耕田、稲

刈り後の田んぼを物色したが、やはり鳥影なく、早々に浮島方面へ向かう。<浮島鳥類観察小屋>では、昼食しながらの探鳥でしたが、常連のミサゴはやはり居てくれたし、黒頭巾のコジュリンも目前で囀ってくれ、セッカの声は盛んで、食欲を盛り上げてくれた。

昼食後、いよいよ、本望の<本新>へ稲敷大橋を渡河する。ハス田に隣接する草が疎らな荒地にコチドリが目付き、観察するとアオアシシギ、ヒバリシギ…。数羽ではあったけれど次々に認められ、懐かしい(?)牛舎の臭いのするハス田では、タカブシギにも出会えた。

予定コース最後の<西の洲>は、干拓工事が進捗し水辺が半減しており、だだっ広い干拓地然に一変していました。残った水面にカイツブリが寂しげでした。なお探しても、トビ、ミサゴ、コサギとカワラヒワの群れ、畦道でのダイサギ、アオサギ…。かつてのシギチのメッカは消滅していました。

先年の様な「群れ」を期待され参加された方には、本当に申し訳ない結果になってしまいました。

何とかしようとした努力が報われない残念な探鳥会でしたが、リベンジを期したいと思います。

<認めた鳥>コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、コチドリ、シロチドリ、タシギ、アオアシシギ、タカブシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、イソシギ、ヒバリシギ、ツバメチドリ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ショウドウツバメ、ツバメ、ヒヨドリ、オオセッカ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュリン、オオジュリン 計41種  
<参加者>松本葉子、小林秀美、金子雅幸、中野久夫、間野吉幸、池田日出男、玉井修一郎、吉田隆行、浅野利幸、大久保陸夫、仲澤成二、鈴木静治、野口隆也、相良直己、常盤孝義、渡邊俊文、上杉宣一、北原建郎、小玉文夫、川上貢、船津登、桑森亮、井上正、百瀬喬 (担当)松本勝英、六角昭男 計26名

## 奥日光探鳥会

9月27日、28日

～初秋の奥日光を楽しみました！～

小澤淳宏

### [一日目]

奥日光は今まで春の探鳥会であったが、今回初めて秋の探鳥会となった。20名の参加者を乗せたバスは順調に10時少し過ぎに「さかなと森の観察園」に到着した。巨木が多い園内は高原のひんやりした空気が気持ち良い。この観察園は百有余年の歴史を持ち、古くは旧宮内省が管轄した由緒ある施設とのことである。皇族方の休憩施設としても使われた資料館(旧庁舎)は落ち着いたある建物である。ニジマス、イトウ、カワマス等にエサを与えながらの探鳥会となった。園内ではゴジュウカラ、キセキレイ、セグロセキレイ、コゲラ等が出迎えてくれた。研究池の縁にはカワガラスが現れ、カメラを持った人は早速連写している。魚観察が主だと思い、カメラをバスの中に置いてきたことを後悔した。オシドリを見たという人もあらわれたが残念ながら見ることはできなかった。このあたりはシカによる食害が激しいらしく、シカ侵入防止用の柵が張り巡らされているが、猿は苦も無く乗り越え、園内には猿の姿も見られます。

1時間ほどで「さかなと森の観察園」を出て、戦場ヶ原に移動。紅葉が少し始まっているため、人出は多く、乗用車は駐車場へ入る列ができていたがバスはすんなり入れた。赤沼バス停から歩き始める。笹が茂ったミズナラ林は黄色く黄葉している。平坦な林の中を軽快に進むが、鳥の声や姿は少ない。林の中を一瞬風が吹き抜け、笹原にその足跡を残すと本格的な秋が近いのを肌で感じる。やがて林が切れ、見事な草紅葉の草原に出た。草原の手前に生える落葉松は未だ緑をとどめ、草紅葉とのコントラストが美しい。小田代ヶ原展望台の手前で、あの有名な小田代ヶ原の貴婦人を写真に収める。ここまでのところ鳥は少ないが、青空のもとミズナラの黄葉、草紅葉、貴婦人を堪能できたので大満足！小田代ヶ原展望台では草原の彼方の山際を飛ぶノ

スリを観察。泉門池までの道は、真っ赤なツタウルシ、少し紅葉し赤い実を付けたズミ、そしてシラカンバが目を楽しませてくれた。そして今回のハイライト、泉門池(いずみやどいけ)のカワガラスとの出会いとなります。この池に住み着いているというマガモは見られなかったものの、カワガラスがしばらくの間その姿を間近で見せてくれました。重たいカメラと三脚を担いできた私としては、こんなに近くでカワガラスに出会えて、ホント報われた気持ちでした。全身黒褐色だと思っていたが、撮った写真でよく見ると尾羽は濃いメタリックブルーである。胸に白点があるので若いカワガラスなのかな。尾羽を上下に動かしながら石の上を伝い、水の中を歩いたり潜ったり、サービスの良い子でした。その後の小田代橋でその清流に息をのんでいると、誰かが見慣れぬ鳥を発見。早速図鑑を取り出し、ノビタキであることが判明し、大騒ぎとなりました。湯滝までの湯川沿いの道では、何人かの釣り人が膝のあたりまで川水につかりながらカワマスのフライフィッシングを楽しんでいるのが印象的でした。奥日光の大自然とマス釣りは切り離せないものようです。

宿舎の休暇村「日光湯元」では、幹事さんの配慮により、大相撲横綱白鵬対逸ノ城の決戦を部屋でゆっくり見ることができました。結果は白鵬が横綱の貫録を見せて勝利し、翌日の優勝まで一気に進みましたが、怪物逸ノ城に対しても白鵬以上の大きな拍手がわきました。また、この日は、木曾の御嶽山が突然噴火し大きなニュースとなっていることを宿のテレビで初めて知り、大自然の恐ろしさを見せつけられました。(そういえば、明日の日光白根山も活火山だったなあ。)食後、幹事部屋で開かれた2次会では、ちょうどアジア大会の女子柔道決勝戦の時間とぶつかり、全員で応援となりました。48KG級では登坂絵莉が堂々の金メダル、63KG級では渡利璃穂が残り3秒で大逆転の金メダルを獲得し、宴席も大いに盛り上がりました。

### [二日目]

二日目は昨日にましての好天で空には一片の雲もない青空。宿舎の近くの林は、ツタウルシ、ニシキギ、ナナカマド、マユミ等がすっかり色づき本格的な秋の到来を告げて



います。

早朝探鳥会では、昨日は声だけだったカケスが見られたほか、コガモ、カルガモ、カワウ、ハクセキレイ(若)、シジュウカラ、コガラ等が見られた。それにしても、湯元源泉で見られたカルガモ、コガモは硫黄分の多い源泉湿地で食事して、体に悪影響が出ないのか不思議である。

宿舎を出た一行は、丸沼高原ロープウェイで標高 2000m(標高差 600m)の山頂駅へ移動した。日光白根山の山頂を仰ぐここまで登ってくると、秋真っ盛りで紅葉、黄葉が雲一つない青空と一対となり一幅の絵画のようである。山頂駅の展望台からは、澄み切った青空の中、日光白根山はもとより、燧ヶ岳、平ガ岳、至仏山、谷川岳、武尊山、浅間山などが一望できた。高山植物植込みでは、エゾリンドウ、トリカブト、キレンゲショウマ、ハクサンフウロなどが未だ咲き残っていた。二荒山神社に参詣して自然散策路に入るが、鳥の声が少ない。ヒガラが林の中を移動している。突然近くで大きな美しい声でメボソムシクイが鳴いた。声は聞こえるがなかなか姿が見つからない。皆で姿を探すが遂に姿を見ることはできなかった。先を歩いていった人の中に、写真に収めた人がいて、見せてもらいメボソムシクイであることが確認できた。

昼食後は、「天空の足湯」で疲れをいやす人、まだ諦めきれずカメラを担いで鳥を探す人がいた。ここのロープウェイは景色と、紅葉があまりにも綺麗なため、所要時間 15 分(片道)というのを忘れてしまう。

最後の探鳥地、光徳牧場へ。牧場横の川沿いを歩いていると、先輩が「以前、この辺りでヤマセミが出たよ」「うわーすごい。どの辺りですか」しかし、よくよく話を聞いてみると 10 年ほど前の話と分かり思わず笑ってしまった。光徳牧場で幹事さんお奨めの定番のソフトアイスクリームを食べ、帰路に着いた。

9 月という季節柄、鳥が少ないなかで 34 種カウントでき、更には天候にも恵まれ予想以上に紅葉を堪能できた印象に残る探鳥会でした。

また予定通り 20 名の参加になり、「さかなと森の観察園」「日光白根山ロープウェイ」などの料金にギリギリで団体割引が適用さ

れ、少しでも参加者の負担を軽くしたいという幹事さんの願いがかなったことも幸いでした。木村さん、六角さん本当にお疲れ様でした。

### 【幹事報告】

台風 16 号の影響が心配されたが、我々の熱い思いが通じたのか、前日までに日本付近を通過し、探鳥会当日は台風一過素晴らしい秋晴れとなった。

1 日目は、朝 7 時我孫子駅前に予定通り 20 名の皆さんが集合。東北道から日光道と順調に走り抜け、10 時過ぎに「さかなと森の観察園」に到着。園内ではマスを中心とした魚と森に来る鳥たち(ゴジュウカラ、キセキレイ、コゲラ等)を楽しむことができた。その後、戦場ヶ原の小田代ヶ原へ入り、青空のもと紅葉し始めた遊歩道を巡る。生憎、鳥は少なかったが、黄葉したミズナラやシラカバ、草モミジを楽しみながら進むうちに、泉門池(イズミヤドイケ)でカワガラスのファッションショー(?)に遭遇、みんなでゆっくりと堪能した。湯滝まで湯川沿いに進み、駐車場でバスに乗り、今日の宿「休暇村日光湯元」に到着。温泉で疲れを癒し、おいしい夕食に舌鼓を打って、二次会も大いに盛り上がった。

2 日目は前日以上の好天に恵まれ、雲ひとつない日本晴れ。朝食前に日光湯元の源泉の湿原に探鳥に出かけ、カモ類やカケス等を観察。朝食後、9 時に宿舎を出発。丸沼高原から日光白根山の 2000m の中腹までロープウェイで一気に駆け上がり、360 度見渡す限りの絶景に歓声。こんなに遠くまできれいに見える日は少ないだろう。二荒山神社に参拝の後、中腹の自然散策路を約 1 時間かけて探鳥したが、メボソムシクイ程度であまり鳥の姿は見えず。昼食をあずま屋でとった後、「天空の足湯」に浸りながらもう一度まわりの紅葉を楽しむ。12 時過ぎにロープウェイで下山し、光徳牧場に向かい牧場周辺を散策、三本松でトイレ休憩をとり 3 時前に我孫子に向けて帰途についた。約 3 時間で予定通り 6 時過ぎに全員無事、我孫子駅前に到着した。今回の探鳥会は昨年までとは違い、秋に実

施したが、ちょうど夏鳥と冬鳥の入れ替えの時期にあたり、観察された野鳥は 34 種類と余り多くなかったが、絶好の天候に恵まれ、また、紅葉も思った以上に進んでいたため、秋の奥日光の風景を大いに楽しむことができた。

< 認めた鳥 > オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、タシギ、トビ、ノスリ、コゲラ、アカゲラ、カケス、ホシガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ウグイス、エナガ、メボソムシクイ、メジロ、ゴジュウカラ、カワガラス、ルリビタキ、ノビタキ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、イカル 計 34 種

< 参加者 > 間野吉幸、野口隆也、野口洋子、古出洋子、中野久夫、桑森亮、松本勝英、大久保陸夫、染谷迪夫、鈴木裕爾、鈴木幸子、船津登、青木典子、天野睦子、渡邊俊文、丸嶋紀夫、小澤淳宏、小坂忠久（幹事）木村稔、六角昭男 計 20 名

---

## 第七回 野鳥サロン

7月20日

---

第 7 回野鳥サロンが、けやきプラザ 8F 第一会議室で開催されました。

今回の参加者は、ベテランが主に 20 名の顔ぶれでした。内容は少し趣向を変え、“頭の体操”として鳥名の漢字・英語表記に関するクイズと、鳴き声の聞き取り（ヒヤリング）です。

資料として、和名・英名リスト（164 種）、国内県鳥リストと「聞き取りウォーミングアップ」を配付しました。

最初の鳥名クイズは、自己採点でしたが馴染み深くても意外に難問の様で、回答が止まっている方が結構いました。みなさんが片仮名表記に慣れてしまっている様子が見てとれました。

英語リストは、和訳（直訳）すると、その鳥の特徴そのものを表していることが多く和名（古名）との差が明白でした。さらに、県鳥名では、生息域として著名で指定理由が

分かる反面、シラサギ（徳島）やキジ（岩手）など選定事情が少し疑問を持たれることもあり、大いに盛り上がりました。

鳴き声の聞き取りは、名前が似ていても鳴き声は全く違うケース、その反対で別種のようにも声が微妙に似ているケースなど、ウォーミングアップの後、リクエストが続き、全 2 時間では不足気味でした。

< 参加者 > 古出洋子、間野吉幸、小澤淳宏、船津登、池田日出男、松田幸保、金子幸子、松本葉子、野口隆也、千葉洋、石井俊子、小玉文夫、畠中暁美、青木典子、木村稔、田中恒雄（担当）類地佑子、石渡成紀、六角昭男、松本勝英 計 20 名

---

## 第八回 野鳥サロン

9月19日

---

第 8 回野鳥サロンが、下記の様に開催されました。

場 所 並木本館 2 & 3 会議室

午後 2 時 ~ 4 時 30 分

テーマ 鳥あれこれ カラス 小澤淳宏  
ツミ観察記 金子雅幸  
鳥のいろいろ一問一答 古出洋子

< 参加者 > 間野吉幸、野口紀子、畠中暁美、小林博之、船津登、松本勝英、松本葉子、門井章、野口隆也、木村稔、松田幸保、金子幸子、川越久枝、類地佑子、佐藤弘美、石井俊子、橋本了次、石渡成紀、千葉洋、小林美智子、弘實さと子（担当）小澤淳宏、金子雅幸、古出洋子 計 24 名

今までの 4 人体制から 3 人体制になり、しかも会場確保に困難を極め、初の午後の開催となる。の題材を決めるまでの経緯や童謡 七つの子 の作詞者、野口雨情についての直系の方から聞いた話などもあり、当人は横道が多かったといわれたが、それにまつわるお話も興味深く良かったし、カラスについては話題の尽きることがないようである。は自宅マンションからの観察とはいえ、ツミの産卵から巣立ちまでの 2 ヶ月以上の期間を、しかも一日 4 時間も観察された時もあったということをおよび、並大抵の観

察記録ではないと感服。その貴重な観察記録を表現たっぷりと話された。は、問題が平易すぎるかと心配したが、10問を提示、知識ある参加者よりプラスの情報を頂き良いサロンになったと思う。時間が30分ほどオーバーしてしまっただが、これが午後開催の有利な点であった。茶菓は時季の梨(印西産のあきづき)とお茶、小饅頭であった。

(古出 記)

## あびこ市民活動メッセ

8月20日、21日

我孫子市で活動する市民団体が一堂に会し、日頃の活動の成果を発表する場として企画された第1回あびこ市民活動メッセが、8月20日(水) - 21日(木)の二日間にわたり、我孫子駅前のけやきプラザふれあいホールで開催されました。

会場では、公益活動発表ゾーン(20団体参加)、造形活動発表ゾーン(10団体参加)、演技活動発表ステージ(10団体参加)の3つのエリアに分かれ、様々な発表が行われました。

当会は、公益活動ゾーンで『手賀沼周辺の四季の鳥』をテーマとしたスライド・ショー、造形活動発表ゾーンで『塗り絵コーナー』を出展しました。

初めての開催であり、夏休み期間中の酷暑の中での開催で、主催者のPR活動も不足していたためか、一般市民や子供たちの来場者が少なく、もうひとつ盛り上がり欠けた催しでした。(主催者発表来場者数：2日間計2900名)

その中でも、当会ブースの、「素晴らしい会員の写真の数々に鳥の声を加えたスライド・ショー」は、出展者の中で第一番の出色の出来栄えと高い評価をいただきました。

参加者の演技が終わったステージでは、各参加団体が5分間の時間でスライドを用いて会の紹介の時間が設けられました。ここでも、当会の紹介が『最も素晴らしく、印象に残った』とのお褒めの言葉を各処でいただきました。

その結果、当会ではこの催しを機会とした新入会員の獲得にも成功しました。

準備・運営にご参加いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。

なお、初日終了後、主催者によりレセプションが開催され、当会からも代表者が参加しました。各団体間の懇親と共に、チームに分かれ、今回の反省と次回に向けての対応に関して真剣な議論が行われました。来年度は、さらに素晴らしい催しとなることが期待されます。

報告：担当幹事 相良

## 9月役員会報告

日時 9月14日(日) 12:30~15:35

場所 水の館 3階研修室

1. JBF2014 出展準備状況について  
各ブースの出展内容等について、担当役員の提案に基づき検討し、決定しました。概要は次の通りです。
  - (1) 出展内容全般と分担表  
・前回役員会資料の修正版、協力スタッフと各ブースの人員体制を確認しました。
  - (2) ブース1 & 展示ブース全体  
・ブース1のテーマは、「未来へ生命(いのち)をつなぐ!」とします。  
・ブース1の展示のメインは、野鳥の繁殖行動、子育て、餌やりなど、生命をつないでいく姿の写真や動画をパワーポイントの自動再生スライドショーにより、紹介します。  
・パネル展示では、当会の紹介パネル及びスライドショーから選抜した写真パネルを展示します。
  - (3) ブース2  
・昨年と同様「野鳥の塗り絵とパタパタ工作」を実施します。参加者には記念品として写真カードを差し上げます。
  - (4) ブース3  
・テーマを昨年同様「庭に鳥を呼ぶ」とし、鳥の餌となる草木の標本と写真パネルを展示します。  
・草木の標本は10種程度に絞り込み、生け花風にアレンジし、野鳥のペーパークラフトを飾るなど、見せ方を工夫します。
  - (5) 湖畔バードウォッチング

- ・基本的には昨年と同様に河童噴水前の広場で実施します。
  - ・スコープをメーカー提供、会員持参を合わせ 10 台程度設置し、ブースはテント、パネルボード等を設営します。
  - ・パネルボードには、当会の紹介パネル、と写真入り野鳥のチェックリストの A3 サイズ拡大版を掲示します。
- (6) 船上バードウォッチング
- ・基本的には昨年と同様で、1 日 3 便を運航し、受付、案内を担当します。乗船者には記念品として写真カードを差し上げます。
  - ・鳥合せには今年から当会の写真入り野鳥のチェックリストを活用します。
- (7) 各種準備物と担当者
- ・各ブースに備え付け、来場者への配布用として、当会の三つ折りパンフレット、写真入り野鳥のチェックリストを記念品用として、写真カードを準備します。
  - ・その他、具体的な各種準備物と担当を確認しました。
2. ほーほーどり 241 号掲載予定記事  
会報 241 号の掲載記事について、資料に基づき検討し、執筆担当等を決定しました。
3. 第 9 回「野鳥サロン」について  
11 月実施予定で、実施日とテーマが決まり次第周知されます。
4. 2014 年芋煮会予算案について  
12 月実施予定の芋煮会予算案について検討し決定しました。
- ・参加費を大人 1,000 円から 1,500 円に値上げ、小中学生は 800 円から 500 円に値下げし、幼児は無料です。
  - ・これにより昨年度実績並みの予算が確保されますが、各担当責任者は極力無駄を省き、効率的に実施、運営することとします。
5. 報告事項
- (1) 第 1 回我孫子市民活動メッセ
- ・8 月 20、21 日、けやきプラザで開催され、当会も発表ブースを設置し、「野鳥の塗り絵」コーナーの運営とパワーポイントの手賀沼の野鳥紹介スライドショーの映写などを実施しました。
  - ・参加者アンケートでは、パワーポイン

トのスライドショーによる当会の発表が最も高い評価を頂きました。なお、来年は、9/26(土)、27(日)に開催される予定です。

(2) 美手連関係

- ・手賀沼流域フォーラム全体会議が 10/11(土)13:30 から「水の館」で開催され、野田自然共生ファーム社長(野田市長)の根本氏によるコウノトリに関する講演、手賀沼トラスト事務局長の富澤氏による手賀沼周辺の環境保全型農業の実践に関する事例紹介が行われます。
- ・当会企画の「親子ふれあい探鳥会」が 11/30(日)に開催されます。当会が探鳥指導を担当しますが、担当役員以外でも積極的な役員や会員の皆さんの参加をお願いします。
- ・手賀沼基金を利用し、手賀沼周辺の写真入り野鳥チェックリスト(4 種類×4000 枚)が完成しました。

(3) JBF 関係

- ・JBF2014 の会場及び出展状況はほぼ昨年と同様です。
- ・モンゴル南ゴビ県議会議員・環境観光部門長から日本での野鳥に関する交流についての協力要請が来ており、JBF 実行委員会に紹介しました。

(4) その他

- ・セブン・イレブン記念財団による「環境市民活動助成金セミナー(10 団体の助成制度の紹介)」が 9/27(土)に新宿で開催され、当会の活動が同市民活動助成制度の趣旨にフィットすれば、今後助成申請を検討します。

6. その他

- ・8/7(木)~12(火)に我孫子市民プラザギャラリーホールで開催された「手賀沼アートウォーク」への協力状況について紹介されました。
- ・市民活動メッセで使用したパワーポイントによる当会の紹介のスライドショーが映写により紹介されました。
- ・現在タスクチームで検討しているデジタル野鳥図鑑のイメージ画面と検討状況が映写により紹介されました。

以上

## 立山の雷鳥 ~3年ぶりに雷鳥の同一ペアに再会できた話~

鈴木静治

1泊2日のバスツアーに参加し、2014年7月5日立山の室堂平に20分の滞在の間に、3年前に同じ場所で出会った同一のライチョウペアに再会出来たのでその経緯を以下に記載します。前日の7月4日は大町市梅池に宿泊しましたが、大雨で梅池高原を散策できませんでした。翌7月5日も朝から小雨模様でした。長野県側の扇沢でも小雨、今回のツアーは駄目だなと思っていたところ、トロリーバスで赤沢岳のトンネルを抜け富山県側の黒部ダムに着くと雨はやみ、立山連峰の頂上は雲がかかり見えなものの山はかなりよく見えるようになりました。ケーブルカー、ロープウェイ、トロリーバスを乗り継ぎ1m位雪の残る室堂に到着しました。室堂のバスターミナルで昼食を摂り残り時間が40分あるため、往復20分かけて、ミクリガ池近くまで、残雪の道を散策することにしました。残雪の近くに咲くイワカガミ、ハクサンイチゲ、ヒメイチゲ、ミツバオウレン等の高山植物に気をとられていると、10cm位の矮性常緑低木ツガザクラの上、ピンクのイワカガミの咲く近くにイワヒバリらしい小鳥が見えました。初めイワヒバリと思いましたが、よく見るとカヤクグリでした。残雪の上で採食しているカヤクグリもいました。今回は雷鳥に会えないかなと思っていると、同行した妻が、残雪の端を何か鳥が走っているよと言う。言われた方向を見ると地味な黄褐色の雷鳥の雌が小走りに出て来ました。その後から目の上の真赤な肉冠を持ち、腹は白く、暗褐色の雄が追い駆けてきました。こんな短時間の滞在で雷鳥を見ることが出来ラッキーと思っていると、2羽とも我々観光客のいる近くの矮性常緑低木の上で採食し始めたので、ゆっくり夏羽(繁殖羽)の雷鳥ペアを観察出来ました。ツアーの出発時間が迫っていたので、雷鳥はまだ居ましたが私たち2人は10分位見てバスターミナルに戻りました。室堂から美女平までの帰りの高原バスの中で撮影してきた雷鳥の写真を見ると、ペアの両脚にカラーフラッグ(プラスチックの旗)と金属の足環の付いているのに気が付きました。帰宅してカラーフラッグと足環のついた写真を山階鳥類研究所保全研究室鳥類標識センターに送り照会しましたところ、雄は2006/10/23に、雌は2009/11/6に足環が付けられたものと判りましたので、雄は8歳以上、雌は5歳以上生きたこととなります。雷鳥研究、保護の第一人者 中村浩志さん著「二万年の奇跡を生きた鳥ライチョウ、農山漁村文化協会、2013年」によれば11歳まで生きた雄が最も長生きとありますので、この雄も長生きのようです。ところで、3年前の2011年6月10日~11日、山に詳しい本会会員の田中功さんの案内で神部さん、大久保さんと雷鳥を撮影に雪山の立山室堂平に行ったことがあります。この時は今回と同じ雪原で雄のディスプレイ、交尾しているペアを見、撮影していました。この時の写真をよく見ると、雄の右脚には青のカラーフラッグ、足環、左脚には赤のカラーフラッグがついており、雌の右脚には黄のカラーフラッグ、足環、左脚には赤のカラーフラッグが付いていました。これは今回と同じ色のカラーフラッグの組み合わせで一致します。また、沢山写した写真の中に足環番号の読めるものはあるかと探

したところ、雄で 796 の数字が読めるものが 1 枚ありました。これは今回山階鳥類研究所への照会で判明した足環番号 10A-96796 と一致するものです。また、前出の中村浩志さんによれば、雷鳥は毎年ほぼ同じ場所で繁殖し、番の関係は雛が孵化すると毎年解消され、雛は雌のみが子育てしますが、翌年まで相手が共に生きていた場合には、同じ番が維持されほぼ同じ場所でまた繁殖すると述べていることから、今回出会った雷鳥ペアは 3 年前に会った雷鳥ペアになります。よく考えてみれば、特別天然記念物の雷鳥には多くがカラーフラッグ、足環が付けられていますので、数十枚の写真を写せばカラーフラッグ、足環番号が読め、雷鳥の経歴が判りますので、出会ったら、是非とも写真を撮って下さい。その情報を山階鳥類研究所に照会すれば雷鳥調査研究、保護の一助となると思います。私も立山の室堂平へ 4 月中旬から 7 月上旬の番が見られる時期に、また行ってみたいと思っています。これまで 短時間の滞在で雷鳥を見ることが出来たこと 足環から雷鳥の年齢が判ったこと 3 年前に会った雷鳥と同じであったこと、の 3 度ビックリした話をしましたが、以下に雷鳥について紹介してみたいと思います。雷鳥はアジア極東に分布しているハイマツと共に、氷河期に日本列島に移り住みましたが、雷鳥はあまり長距離飛べないので、温暖化で海を隔てた大陸に帰れなくなりました。そこで日本の雷鳥は標高の高いハイマツ帯 2,400-2,500m に移り住みました。日本の雷鳥は世界最南端に生き残っていることになりました。それ以降高山に適応した季節変化、「3 回の換羽」をするようになり、積雪のある冬には白い冬羽、繁殖期には残雪のハイマツ帯で天敵より見づらく見つけにくい雌は黄褐色、雄は茶褐色の夏羽に、子育ても終わる紅葉時には黒褐色の秋羽に換羽します。繁殖後に羽根は生え変わりますが、他の 2 回の換羽は外から見える部分の羽根の色が変わるようです。ノルウエー等の北欧の雷鳥は年中白いままで。このスバルバル諸島の雷鳥は上野動物園、長野市茶臼山動物園、富山市ファミリーパーク等で飼育、展示されていますので、上野動物園に行かれた時は一度見て下さい。もう一つ日本の雷鳥の特徴は「人を恐れない」ことです。捕まえようとしないうち採食のため相当近くまで寄ってきます。雷鳥の食べ物はガンコウラン、コケモモ、ミネズオウ等の 10cm 位の矮性常緑低木、落葉矮性低木で 10~80cm のクロマメノキ等の植物を食べるようです。積雪期にはこれらの植物は雪の下になりますので、高山より降り 1,500m 以上の森林帯に生えるダケカンバの芽を食べるようです。なお 5~6 月頃雪原上に下から吹き上げられ雪の上でうごけなくなったアブラムシ(植物に寄生し汁を吸う 1mm 位の虫)の群れを食べていることがあります。繁殖期にのみ観察される行動で他の時期には見られないようです。また孵化後すぐ歩き始める雛は植物が主食ですが、花に集まる昆虫も食べるようです。日本は、稲作文化で山岳信仰があり、雷鳥は「神の鳥」として長い間保護されてきたが、明治時代、狩猟で乱獲され少なくなったので、1923 年天然記念物、1955 年特別天然記念物に指定されました。1960 年には富士山に放鳥が行われましたが 1970 年には居なくなりました。1963 年に富山、長野、岐阜の「県の鳥」に指定されました。同年大町博物館で平地での飼育が始まり 2004 年まで続けられたが、失敗した。富山県は 1966 年~1971 年に立山の室堂で人工飼育をし、子育ての実態を解明しました。平地、ハイマツがなく高山植物の豊かではないところでは繁殖が無理のようです。一方、欧州では牧畜の肉食文化で雷鳥は狩猟鳥とされていますので、人を恐れ逃げます。現在日本には 2000~3000 羽(絶滅危惧種)しかいないといわれています。富山県、長野県等に多く、立山の室堂、乗鞍岳等が雷鳥を観察しやすいことで

有名です。雷鳥の天敵はオコジョ、イヌワシ等です。晴天の日にはハイマツの茂みに隠れてなかなか出てこないのですが、悪天候、霧の出るような日には比較的出てくるようです。今回あまり天気が良くない時雷鳥を見ることが出来ました。山登りは天候が良い方が楽しいのですが、雷鳥の観察は悪天候の方がチャンスであるようです。なお、雷鳥の雄の縄張りは200～300m四方で、毎年ほぼ同じ場所、離れていても500m以内といわれています。雷鳥は信州大学教育学部の羽田健三さんにより研究調査が行われ、その後乗鞍岳を中心にして足環をつけた雷鳥で、中村浩志さんに研究調査が引き継がれています。鹿、猪等の食害による高山植物の減少により雷鳥の個体数は減っていると言われていたのですが、乗鞍岳の雷鳥は減っていないとのこと。これは、繁殖期に乗鞍岳の山頂近くの東大宇宙線観測所の敷地内に金属、木製のケージを設置し、7月上旬から中旬に雷鳥の雛が孵化したら2名程でケージの近くにいる1家族をケージのある場所に時間をかけて誘導します。ケージに誘導した家族は、翌日にはケージから出してやり日中は外で生活させます。人が家族に付き添うことで捕食者からの危険を避け、夕方にはまたケージに収容します。捕食の危険は昼より夜の方が危険性は高いのです。雨や強風など天候が悪くなったら、ケージに誘導します。1つのケージで10日間ほど家族を保護するとケージ内が糞で汚れるので、隣のケージに移し、3つのケージで約1ヵ月保護します。そして雛が十分飛べるようになり、体温調整が出来るようになった段階でケージを使った保護を中止し、以後は家族が自由に生活できるようにする「孵化後の家族1ヵ月間ケージ内保護」等の効果もあるのでしょうか。これらの話は前出の中村浩志「ライチョウ」に判りやすく記載されていますので、興味ある方には御一読を勧めます。なお、記載にあたり前述の中村浩志「ライチョウ」の他に、右高英臣「ライチョウの四季、あかね書房(1994年)」、富山県立山センターHP「立山のライチョウ」を参考にしました。終わりに、立山の室堂平の雷鳥は登山の苦勞もなく雷鳥を見ることのできる場所ですので、鳥好きの方には4～7月に行かれることをお勧めします。7月以降には雛を連れた雷鳥の家族(母鳥と幼鳥)を見ることが出来るかもしれません。

## 鳥 だ よ り

- |                              |      |                                |             |
|------------------------------|------|--------------------------------|-------------|
| 7.19 [北新田] オカカ(1) 鉄柱の頂部に降りる。 | 畠中暁美 | 7.25 [柏市南部] ツミ(1) 9:02、鳴き声     | 中野久夫<br>飯泉仁 |
| 7.21 [北新田] カッコウ(1) 越流堤横柳上    | 中野久夫 | 7.28 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(1)      | 船津登         |
| 7.21 [北新田] コシキリ(1) 休耕畑で囀り    | 中野久夫 | 7.30 [北新田] フウガク(1) 電柱から飛去      | 中野久夫        |
| 7.22 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(2)    | 船津登  | 8.01 [手賀新田] フウガク(1) 電柱上で獲物を食べる | 鈴木静治        |
| 7.22 [北新田] コシキリ(1) 休耕畑で囀り    | 中野久夫 | 8.01 [布佐平和台] ヒ(1) 上空を通過        | 鈴木静治        |
| 7.23 [北新田] カッコウ(1) 越流堤横柳上    | 中野久夫 | 8.04 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(3)      | 船津登         |
| 7.24 [北新田] ヒ(1) 畔から飛立        |      |                                |             |

- 8.07 [岡発戸新田] ビ<sup>1</sup>(1) 斜面林上空を  
風に乗り飛ばす 鈴木静治・船津登  
・池田日出夫・金子雅幸
- 8.09 [北新田] ビ<sup>1</sup>(1) 飛翔 中野久夫
- 8.09 [布佐] ビ<sup>1</sup>(1) 12:15、上空を旋回  
飯泉仁・飯泉久美子
- 8.12 [布瀬新田] ハブ<sup>1</sup>(1) 鉄塔中段にと  
まる 鈴木静治
- 8.12 [手賀沼辺] チョウゲンボウ<sup>1</sup>(1) 上沼 1  
染谷迪夫・木村 稔・田中功
- 8.12 [手賀沼辺] ハブ<sup>1</sup>(1) 上沼 1  
染谷迪夫・木村 稔・田中功
- 8.15 [発作] ハブ<sup>1</sup>(1) 飛んで来て木の茂  
みにとまる 鈴木静治
- 8.18 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガ<sup>1</sup>(4)  
船津登
- 8.19 [北新田] クサギ<sup>1</sup>(1) 4 号排水路で  
中野久夫
- 8.19 [柏市南部] ツミ(1) 10:00 すぎ、鳴き声  
飯泉久美子
- 8.20 [北新田] クサギ<sup>1</sup>(1) 4 号排水路で  
中野久夫
- 8.20 [緑2丁目] オカ<sup>1</sup>(1) 「楚人冠邸園」  
内の大木の樹上で休止 野倉元雄
- 8.20 [相島] チョウゲンボウ<sup>1</sup>(1) 水田上で停飛  
鈴木静治
- 8.21 [北新田] クサギ<sup>1</sup>(1) 4 号排水路で  
中野久夫
- 8.21 [北新田] チョウゲンボウ<sup>1</sup>(1) 電柱から飛  
去 中野久夫
- 8.23 [柏市南部] ツミ(1) 9:44、若鳥が枝に  
止まって餌をねだる声を出していた  
飯泉仁
- 8.23 [布佐平和台] ビ<sup>2</sup>(2) 住宅上空を鳴  
きながら飛ばす 鈴木静治
- 8.24 [北新田 3 号排水路付近] サバ<sup>1</sup>(2)  
飛翔 畠中暁美
- 8.24 [柏市南部] ツミ(2) 9:24、若鳥 1 羽、  
成鳥雌 1 羽 飯泉仁
- 8.24 [柏市南部] ツミ(1) 9:42、林に飛来し  
たサバ<sup>1</sup>を追尾 飯泉仁
- 8.24 [柏市南部] サバ<sup>1</sup>(1) 9:42~10:16、ツミ  
の暮らす林に飛来しツミとオカ<sup>1</sup>に追尾され  
ていた 飯泉仁
- 8.25 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガ<sup>1</sup>(2)  
船津登
- 8.25 [北新田] クサギ<sup>1</sup>(1) 4 号排水路で
- 8.26 [北新田] ビ<sup>1</sup>(1) 電柱上 中野久夫
- 8.29 [北新田(水路)] ビ<sup>1</sup>(5) 電線に止ま  
る 1、上空を飛ばす 4 船津登
- 8.30 [柏市南部] サバ<sup>1</sup>(1) 8:58、林上空を  
飛翔 飯泉仁
- 8.31 [布施あけぼの山公園] ビ<sup>1</sup>(1) 13:29、  
上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 9.01 [片山(手賀の丘公園)] オカ<sup>1</sup>(1) 木の  
頂きに止まる 船津登
- 9.02 [北新田] ビ<sup>1</sup>(1) 飛翔 中野久夫
- 9.04 [下沼田] チョウゲンボウ<sup>1</sup>(1) 稲田上空を  
飛ばす 鈴木静治
- 9.04 [手賀新田] クハラアサギ<sup>1</sup>(1) 川の上空  
を飛ばす 鈴木静治
- 9.04 [上沼田] ビ<sup>1</sup>(1) 上空を飛ばす  
鈴木静治
- 9.04 [岡発戸新田] ビ<sup>1</sup>(1) 沼上空を飛ばす  
鈴木静治・猪爪敏夫・間野吉幸  
・池田日出夫・蒲田知子
- 9.04 [岡発戸新田] ショウトウバメ<sup>1</sup>(3) 田の上  
を飛ばす(初認) 鈴木静治・猪爪敏夫  
・間野吉幸・池田日出夫・蒲田知子
- 9.06 [東中新宿] コモ(2) 8:35、自宅上空  
を新松戸方面から手賀沼方面に飛翔し通  
過(初認) 飯泉仁・飯泉久美子
- 9.07 [北新田] ビ<sup>1</sup>(1) 飛翔 中野久夫
- 9.07 [北新田] オカ<sup>1</sup>(1) 電柱上 中野久夫
- 9.07 [酒井根] アハト<sup>1</sup>(1) 15:08、林の中か  
ら鳴き声 飯泉仁・飯泉久美子
- 9.07 [酒井根] サバ<sup>1</sup>(1) 14:28、北側の林の  
天辺に止まり、周囲を警戒  
飯泉仁・飯泉久美子
- 9.08 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガ<sup>1</sup>(4)  
船津登
- 9.09 [北新田] ビ<sup>1</sup>(1) 飛翔 中野久夫
- 9.11 [千間橋] チョウゲンボウ<sup>1</sup>(2) 機場の建物  
にとまる 鈴木静治
- 9.11 [浅間前] チョウゲンボウ<sup>1</sup>(1) 稲田の上を  
飛ばす 鈴木静治
- 9.12 [北新田] オアシギ<sup>1</sup>(1) 稲刈り田から  
飛立ち 中野久夫
- 9.14 [光ヶ丘 広池学園] チュウ<sup>1</sup>(1) 9:01、上  
空 200m 前後の高さを手賀沼方向から新  
松戸方向に飛翔し通過、翼の先端が黒く  
なっており、腰が白く見えた 飯泉仁
- 9.14 [中里新田] ビ<sup>1</sup>(1) 農道の電柱にと



- まる 鈴木静治
- 9.14 [手賀沼辺] 比<sup>1</sup>(1) 上沼 1  
染谷迪夫・木村 稔・田中功
- 9.14 [手賀沼辺] 材<sup>1</sup>(1) 上沼 1  
染谷迪夫・木村 稔・田中功
- 9.14 [千間橋] コガ<sup>2</sup>(2) 川の中州近くを泳ぐ(初認) 鈴木静治
- 9.14 [手賀沼] コガ<sup>8</sup>(8) 上沼 8(初認)  
染谷迪夫・木村 稔・田中功
- 9.15 [中峠] アカ<sup>1</sup>(1) スギの朽木の幹にキョッキョウ鳴きながら、上下しながら採餌に夢中。 松本勝英
- 9.15 [片山(手賀の丘公園)] ヤマ<sup>1</sup>(1)  
船津登
- 9.15 [北新田] 比<sup>1</sup>(1) 畔で 中野久夫
- 9.16 [中峠] サハ<sup>1</sup>(1) 自宅最寄の木の梢に 松本勝英
- 9.16 [弁天下] 比<sup>1</sup>(1) 飛翔 中野久夫
- 9.16 [弁天下] 比<sup>1</sup>(1) 2号排水路土手で 中野久夫
- 9.17 [中峠] サハ<sup>1</sup>(1) 林の一番高い木の梢に。水田の稲刈りや、草場の天地替え作業で、エサを物色しているようす 松本勝英
- 9.17 [弁天下] 比<sup>1</sup>(1) 飛翔 中野久夫
- 9.17 [弁天下] 比<sup>1</sup>(1) 2号排水路土手で 中野久夫
- 9.17 [北新田] 比<sup>1</sup>(1) 落とし堀土手で 中野久夫
- 9.17 [江蔵地] ハヤ<sup>1</sup>(1) 鉄塔上部にとまる 鈴木静治
- 9.18 [片山(手賀の丘公園)] 比<sup>1</sup>(1) 木に止まる 船津登
- 9.18 [片山(手賀の丘公園)] コサ<sup>2</sup>(2) 木の中を動く 船津登
- 9.18 [片山(手賀の丘公園)] ヤマ<sup>1</sup>(1)  
船津登
- 9.18 [北新田] 材<sup>1</sup>(1) 稲刈り田から飛立ち 中野久夫
- 9.18 [片山(手賀の丘公園)] コサ<sup>1</sup>(1) 木の中を動く(初認) 船津登
- 9.19 [北新田] 比<sup>1</sup>(1) 落とし堀土手で 中野久夫

今回寄せられた鳥の全種名

アオサギ、アオバト、アカゲラ、アマサギ、イソシギ、ウグイス、エナガ、オオジシギ、オオタカ、オオバン、オオヨシキリ、オナガ、カイツブリ、カッコウ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、キジ、キジバト、キセキレイ、キビタキ、クサシギ、クロハラアジサシ、コアジサシ、ゴイサギ、コガモ、コゲラ、コサギ、コサメビタキ、コチドリ、コブハクチョウ、コヨシキリ、サシバ、シジュウカラ、ショウドウツバメ、スズメ、セグロセキレイ、セッカ、ダイサギ、タシギ、チュウサギ、チュウヒ、チョウゲンボウ、ツバメ、ツミ、トビ、ノビタキ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハヤブサ、バン、ヒバリ、ヒヨドリ、ホオジロ、ミヤマガラス、ムクドリ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ヨシゴイ

計 62 種

<番外種>

アイガモ、アヒル、カワラバト、コジュケイ

今回の投稿者の総投稿件数

飯泉仁	160
飯泉仁・飯泉久美子	63
飯泉久美子	1
鈴木静治	185
鈴木静治・船津登・池田日出夫・金子雅幸	13
鈴木静治・猪爪敏夫・間野吉幸・池田日出夫・蒲田知子	9
染谷迪夫	33
中野久夫	51
野倉元雄	1
畠中暁美	2
平岡考	1
船津登	130
松本勝英	3
総計	652

(浅井久)

## 山階鳥類研究所からのお知らせ

(公財)山階鳥類研究所と我孫子市鳥の博物館では、JBF2014にあわせ、下記のとおり「第24回 鳥学講座」を開催します。

「恐竜だって、本当は鳥みたいになりたい」

講師 川上和人(かわかみ・かずと) 森林総合研究所主任研究員

日時 11月1日(土) 午後14時30分~16時 (開場14時15分)

場所 アビスタ ホール(定員120名)

参加費 無料

## 会からのお知らせ

「会員アンケート調査」にご協力頂きまして有難うございました!

会員の皆様へ

この度は、守る会活動全般についての「会員アンケート」に快くご協力頂きまして誠に有難うございました。

お陰様で会員に対して56.8%の返送を頂くことができました。

今後は、会員の皆様のご回答をアンケート調査委員会で集計・分析し、事務局会議、役員会で十分に検討し、来年度以降の活動に活かして参りたいと思います。

期間中(1ヵ月間)におきます皆様のご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

アンケート調査委員会

野口隆也、古出洋子、船津登、金子幸子

<新入会員紹介> 上杉 宣一 (柏市在住)  
芹澤 正子 (我孫子市在住)  
渡邊 公子 (松戸市在住)

<お詫び> 前240号の第13ページの上から1~4行目が前のページの下4行と重複記載しています。抹消をお願い致します。お手数をお掛けいたしお詫び申し上げます。

<お断り> 本号はab-yachoへの投稿が少なかったため会員便りは割愛しました。

## ほーほーどり No.241 (2014年11~12月号)

発行 2014年11月1日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、古出洋子、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務所 〒270 1154 我孫子市白山3-8-16-104 間野方

連絡先 〒277 0005 柏市柏1001-5 野口隆也 Tel 04 7163 7898

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費2,000円(大学生・高校生1,000円、中学生以下500円、家族会員無料)